

新年に 年頭の

新年明けましておめでとうございませう。

希望に満ちた新春を迎え、皆様のご健勝とご繁栄を心からお祈りし、東通村議会を代表いたしまして、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

村民の皆様には、平素より議会に対する格別のご理解と絶大なご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

議長就任以来、議員各位のご協力を頂きながら、複雑多様化する行政需要に的確に対応するため、開かれた議会と村政の伸展を一義として、誠心誠意努力して参りました。

本村の礎を築かれた先人の方



東通村議会議長 南川 誠一

々に深く感謝申し上げ、愛する郷土東通村を未来の村民に誇りをもって引き継ぐことのできるよう、一層の努力をお誓いし、新年を迎え、決意を新たにしているところであります。

さて、昨年を顧みますと、我が国の経済は、成長率の低下、雇用情勢においても依然として厳しく、デフレも継続しており、未だ本格的な自律回復過程に至っていないものと受け止めております。

一方、国の財政状況は、大幅な税収減、景気対策やマニフェストに掲げた新規政策の実施等に伴う歳出増により、過去最高の公債依存度に達する等、一段と深刻さを増している状況にあるものと考えます。又、本格的な少子高齢化、人口減少社会が到来する中で、国民が安心できる社会保障制度の確立を一体的に進めていくことが求められております。

本村の基幹産業である一次産業において、農業の稲作は、平年を上回る収穫となり、漁業は、昨年の猛暑による海水温の影響等から、初秋においては、イカ・サケ漁の水揚げが一時懸念されましたが、その後、好漁が続きました。漁家にとっては安堵されたものと思っております。

皆様ご承知のとおり、我が村

は市町村合併をせず、原子力発電所との共生により、単独で発電する道を選択しております。地方財政は厳しさを増す一方でありますが、村民皆様の期待に応えるべく、今後とも急激な社会情勢の変化に対応しつつ、的確な施策の展開に向け努力をして参りたいと存じます。

昨年十一月十六、十七日東京で開催された、全国原子力発電所立地市町村議会議長会主催による第七回全国原子力発電所立地議会サミットに全議員が参加し、「我が国における原子力政策」をテーマに、全国原子力発電所立地市町村のそれぞれ立場が異なる議員同士が関係者同席の下、各分科会毎に真剣に議論し、その違いを乗り越えて一緒に取り組んでいくという決意が見出され、国は、原発立地自治体、また、地域住民と真摯に向き合って対話すること、その責任の重大さを認識し、原子力政策の理解を深めるべく、前面に立って国民への働きかけを積極的に展開すべきという主旨のサミット宣言を参加者一同により承認されたところであります。

一方、東通原子力発電所東北電力一号機は、安全に安定した運転を続けられており、本年二

月から六月頃に予定されている第四回定期検査終了後から、運転期間を従来の十三ヶ月以内から十六ヶ月以内へ延長する計画を国へ提出されており、現在、国において確認・審査が行われていることとあります。

また、東京電力一号機は、国より原子炉設置の許可がなされ、本格的な工事が進められるとのことであり、議会といたしましても、建設計画が遅れた場合、地元雇用、更には地域振興・財政計画に多大な影響を及ぼすことが必至となり、大変危惧されることから、今後とも引き続き、村共々、強く事業者に対し計画どおり進めるよう要請して参りたいと考えておりますので、ご理解賜りますようお願いいたします。

本年も、内外の経済、社会情勢の厳しい中ではありますが、村議会に与えられました村民の皆様からの信託とご期待に添うべく、懸命な努力を傾注する所存でありますので、何とぞ倍旧のご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。

ここに、村民の皆様のご多幸とご繁栄をお祈りするとともに、平成二十三年が我が村にとって希望に満ちた年となりますようお願いし、新年のご挨拶といたします。